

榛名神社社報

発行日 平成十八年七月十五日
 発行所 沼田市榛名町一八五二
 電話 〇二七四 〇六五五
<http://hatsunomori.com/>
 発行人 金子由紀子



榛名神社由緒記

御祭神
 魂山姫命 (生命守護、五穀豊穡の神)
 倭建命 (開運、土地守護の神)
 皆原道真命 (学問守護、災難厄除の神)
 建御名方命 (産業守護、健康長寿の神)
 大國主命 (商売繁盛、良縁結び、病氣平癒)
 磯島社 加茂社 面美社
 元縣社 利根沼田鎮守
 沼田氏、真田氏、本多氏、黒田氏、土岐氏と代々の城主の崇敬を受け、その由縁の品々も今も保存されている。特に本殿は享禄二年(1559)沼田頭家の建立、元和元年(1630)真田信之により改築され、兼社華厳な桃山文化を今に伝える。

社頭講話 II 温故知新

榛名神社には、先代から受け継いでいる社務日誌や覚書などがたくさんあります。今回は「縣社榛名神社御由緒」十六代金子志解から、(明治初年、神職金子包宣日記の一節)を紹介いたします。

- 一、御城主土岐五位頼知様若殿御誕生御代参石川國江様御出御差上申候
 當社計 慶應四年七月六日
- 一、曾津口戦争御武運長久之為御折念被仰付殿様並二御連枝様方御武運長久之御礼 壹枚
- 一、土岐五位頼知様與林様名宮御参詣日録相納且又神主宅御立寄御手當七ツ時迄御休御茶代被下置候事
 明治二年三月廿九日
- 一、同四月二日右奥様御足痛之由二而老女御代参御折念 御年廿八才御名おたまさま
 被仰渡 御年廿七日御病氣御全快二付老母御代参トシテ参詣
 同日八月廿七日土岐五位源頼知様榛名大神へ御参詣
- 一、若殿様御誕生七日二付御代参西林様御差上
 明治四年八月十八日
- 一、若殿様三十一日御宮参御代参御家扶伊藤様御守之儀八天朝御布告堅三寸之木札守札差上ル若殿様御名前土岐定省様木十八日出生一、殿様御事知事役罷免御京被仰付候二付御代参
 明治四年九月二十一日

今も昔も、普通の人も、昔のお殿様も、赤ちゃんが生まれれば節目詣、病氣になれば、病氣平癒祈願、人生の節目には而て感謝と御加護を祈ります。古い日誌を紐解くと、当時の様子が目の当たりに浮かび、そこからまた今後のことを考えさせられます。

「故きを温ねて新しきを知る」
 時には、神社の社で、古の人や景色に思いをはせては如何でしょうか。新しい発見があるかもしれません。

なにこのおはしますかはしらねども
 なたじけなきになみだこぼるる (西行法師)
 この世には、目に見えない畏き存在があります。それに気づき、日々生活している人は、いつも強く守られ導かれています。

榛名神社には氏子区域十二ヶ町に入らずの氏子総代がいます。氏子の皆さんが毎回お祭りに参列することは難しいので、皆さんの代表として、参りや氏子総代の方が氏子繁栄・郷土発展をお祈りしています。

ですが、人生の節目や、車を買ったとき、家を建てるときなどには、必ず御祈願をしましょう。と病人が出たり不運が続いたりする話ばかりに不思議と祈願するようにならなくてはならない場合も、ぜひ心をこめて祈願するようになってください。



群馬県神職青年会 第5回献木事業

平成18年4月28日
 神社境内にマンサクの木を献木していただきました

平成十八年八月三、四、五日

◇ 祇園祭執行について ◇

左記の通り、祇園祭についての日程等を一案申請し上げます。

一、日程

午前七時三十分	神輿奉遷・神輿奉幸祭	榛名神社
午前八時	水子にて遊御・榛名神社	氏子区域
十時三十分頃	東倉内町・榎倉内町・材木町・東原町・西原町	氏子区域
午後一時頃	文化会館にて昼食・休憩	文化会館
午後二時頃	上原町・榎町・高橋町・柳町	氏子区域
午後三時	柳町祭典事務所着	柳町事務所
午後三時三十分	奉仕団により渡御	柳町を出入
午後六時	仮宮着御祭	仮宮
午後四日 午後五時	恒例大祭	仮宮
八月五日(土) 午後四時三十分	参集奉仕団により御神輿の準備	仮宮
午後八時	選挙集	仮宮
午後九時	奉仕団により、選挙	仮宮
午後十時	須賀神社神輿・氏子区域山車との競演	市役所前広場
本年度当番町 薄根町 (材木町)	境内に神輿到着予定	榛名神社
	本年度当番町 薄根町 (来年度当番町 東原新町)	榛名神社